朝霞市立朝霞第一中学校

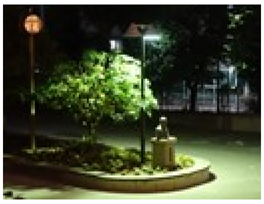
学 校 だ よ り

校 訓
自 立
貢 献
信 頼

学校教育目標
・自ら学ぶ生徒
・思いやりのある生徒
・健康に努める生徒

希望を胸に未来へ前進する学校

令 和 ８ 年 ６ 月 １ 日　生徒数　９１１名



たくましく育ってほしい

校　長　　金子　二郎

　先月半ばには最高気温が 30℃を超えた観測地点がいくつもあったとの報道もあり、「夏の先取り」どころか深刻に熱中症も懸念されました。下旬には一転して梅雨の走りの空模様となりましたが、生徒の日頃の行いが良いためか第 80 回の体育祭も成功裏に実施することができました。当日は、生徒一人一人の輝く笑顔とひたむきな姿をご覧いただくことができたかと存じますが、もちろんここに至るまでには保護者やご家族の方のご協力や地域の皆様のご理解があったことは言うまでもありません。改めて御礼申し上げます。さて、この学校だよりは５月号より学習用端末を活用して生徒一人一人にも配信しております。今回は、子供たちも読んでくれていることをイメージしながらお伝えします。以前、「何で学校に来るんだろうね」と子供に尋ねたことがあります。すると「勉強するからだよ」と答えてくれました。教師の本分は授業ですので、確かに正解の一つです。ただ勉強だけであれば、学習用端末や自宅のコンピュータでも可能であり、わざわざ学校に来なくても学べる内容も少なくありません。でも自宅で一人で勉強を頑張っていると、自分の好きな教科や得意な内容に偏ってしまうかもしれません。学校には自分や家族ではない「他者」があふれています。自宅では出会うことのない「異物」に触れ、それまでは存在することすら気が付かなかった新たな「世界」に遭遇できる可能性があります。確かに新たな世界は必ずしもすべての子供にとって居心地の良いものであるとは限りません。場合によっては対立する存在を自覚することにもなります。それも含めた他者と折り合うことを通して、自分の人間的な幅や可能性が拡がると信じます。アルゴリズムによって選択された耳あたりの良い情報が占める世界では、成し得なかった成長が期待できます。高名なスクールカウンセラーであり、公認心理師・臨床心理士の普川くみ子さんは雑誌の取材に応えて、「『学校は子供を変える場所ではなく、子供が自分で考え、試行錯誤できる場』としての視点の転換が、これからは大きくなってくる」と述べています。自分で考えるために必要な様々な情報を用意するためには、学校は多様な場である必要があります。その一方、大人は子供の健やかな成長を願うあまり、ともすると子供が失敗することを厭い、自身の経験則から限定された正解をあてがってしまうことすらあります。子供の人生のほんの僅かな時間しか共に過ごすことができないゆえに、私たちはややもすると必要以上に教え込みかねません。逆に試行錯誤を通して自分の手で答えを見つけ出すまで、見守りながら忍耐強く待ち続けることが、学校としても一番求められていることなのかも知れません。

自分にないものを持っている人と出会うことが成長につながる（本庶 佑）